

研究主題 「よりよい生き方を考え続ける児童の育成」

～自ら考え、深め合う道徳科の授業づくり～

坂戸市立上谷小学校

1 研究主題の設定理由

本校は、「自分の考えを伝えることが苦手な児童が多い」という実態から、令和6年度は、「言語活動の充実」を目指して研究を行った。また、坂戸市で力を入れている主体的・対話的で深い学びを目指した「学びづくり」による授業改善に努めてきた。令和7年度は教科を道徳科に絞り、児童が考えや思いを十分に伝えることができる授業を展開していきたいと考える。そのためには、児童の実態を把握した上で、全教員が道徳科の特質に沿った教材研究を行えるよう研修をする。また、児童が道徳的な問題について自分なりの考えがもてるようにしたり、自分の考えをより深めるための対話的な授業展開を工夫したりするなどの、具体的な手立てを研究する。

また、学校教育全体を通して道徳教育を実践し、家庭や地域に対しては実践内容の周知や啓発を行うなどの連携をするとともに、学校が核となり児童の道徳性を育むことで、児童がよりよい生き方をみつめる姿を共有していく。

以上のことを踏まえ、本研究に迫りたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の仮説

(1)対話的な学習を通して、自己の考えを他者と比較したり、他者の考えを認めたりする授業展開ができれば、児童の道徳的諸価値の理解をもとにした考えが深まり、よりよい生き方をみつめることができるだろう。

(2)道徳科の授業や教育活動の様子を家庭や地域に伝えたり家庭から意見を募集したりするなどの連携した活動をすれば、児童は自己をみつめ、よりよい生き方を求めていこうとする意欲や態度が高まるだろう。

3 研究の経過

月	日	曜日	研修	内容
4	3	木	研究推進①	今年度の研究の方向性(教職員アンケート調査)・研究組織と研究授業者決定・研修計画等
	14	月	校内研修①	道徳科の授業づくり研修会①(研修主任より) 6年「お母さんお願いね」教材研究
5	12	月	研究授業①	研修主任による授業公開【6-1】・協議会 指導者：西部教育事務所指導主事 星野嘉之先生
6	9	月	校内研修②	5年「心のレシーブ」指導案検討
	12	木	研究授業②	学びづくり研修会①【5-1】指導者：根本光子先生
	18	水	校内研修③	道徳教育の推進について～道徳重点項目を意図した声掛け～ 今年度の研修計画の確認
	20	金	調査①	第1回 hyper-QU
	24	火	指導訪問	学校指導訪問【3-1 5-1で星野嘉之先生からいただいた指導を後日レポートで伝達】

7	2 2	火	研究推進②	1 学期の取組のまとめ 指導案形式について
8	2 6	火	校内研修④	道徳科の授業づくり研修会② 2年「ぐみの木と小鳥」指導案検討
	2 6	火	校内研修⑤	第1回 hyper-QU 分析研修会(竹中 SC)
9	1	月	校内研修⑥	道徳科の授業づくり研修会③ 4年「日曜日のバーベキュー」指導案検討
10	2	木	校内研修⑦	研究授業・協議会【2-1】 指導者：十文字学園女子大学教授 浅見哲也先生
	7	火	講演	命の安全教育(4年から6年) 埼玉医科大学産婦人科医 高橋幸子先生
	2 2	水	研究授業③	授業公開・協議会【4-1】 指導者：西部教育事務所指導主事 星野嘉之先生
	3 0	木	調査②	第1回道徳・規律ある態度調査
11	1 0	月	校内研修⑧	6年「手品師」指導案検討
	2 0	木	視察①	全国道徳教育発表会「広島大会」視察～21日(金)
	2 8	金	研究授業④	研究授業・協議会【6-1】
12	8	月	調査③	第2回 hyper-QU
1	8	木	校内研修⑨	道徳科の授業づくり研修会④ 3年「しあわせの王子」指導案検討 指導者：西部教育事務所指導主事 星野嘉之先生
	1 4	水	校内研修⑩	道徳教育パワーアップ研究協議会【オンライン】
	2 1	水	校内研修⑪	1年「ええやん」指導案検討
	2 8	水	研究授業⑤	研究授業・協議会【1-1】
2	2	月	研究授業⑥	授業公開・協議会【3-1】 指導者：十文字学園女子大学教授 浅見哲也先生
	9	月	調査④	第2回道徳・規律ある態度調査
	1 8	水	校内研修⑫	今年度のまとめ
3	9	月	研究推進③	来年度に向けての方向性

4 研究の内容

(1) 上谷小道徳教育重点目標に特化した別葉の活用

道徳科で「親切、思いやり」「友情、信頼」の授業をした後、全教育活動で重点内容項目に関する声掛けを意図的に行うために、別葉に「具体的な声掛け例」を示した。特に、児童が思いやりをもって行動している姿を見つけて褒めることや、行動は未熟であっても、他者を思いやろうとした児童を認め、励ますことを徹底した。

道徳重点目標 別葉 1年 道徳と教科等との関連(指導時期順)

		<table border="1"> <tr> <td>全学年を通しての重点指導内容</td> <td>B相手のことを思いやり、互いに協力し合って活動できる子</td> </tr> </table>		全学年を通しての重点指導内容	B相手のことを思いやり、互いに協力し合って活動できる子	<table border="1"> <tr> <td>低学年の重点指導内容</td> <td>B 友達に温かい心で接し</td> </tr> </table>		低学年の重点指導内容	B 友達に温かい心で接し
全学年を通しての重点指導内容	B相手のことを思いやり、互いに協力し合って活動できる子								
低学年の重点指導内容	B 友達に温かい心で接し								
* 単元名の○数字は配当時間数を示す。									
教科他	月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
道徳	教科書 内容別 単元別				10「はしのうたのおおかみ」 B親切、思いやり いじめ防止		19「ここはぼんぼり」 B友情、信頼 いじめ防止		24「はなばあちゃん」 B親切、思いやり
学校行事	入学式 「新しい友達と仲良くしよう」 B親切、思いやり B単元を伝える会 B親切、思いやり 「上谷小のお見立会」 B仲良くしようね。	交通安全教室 B親切、思いやり 「みんなと一緒に歩くときは、(下校時)お互いに協力して安全に帰りますよ。」	運動会 B友情、信頼 たてわり遊び B親切、思いやり 「他学年の友達との交流も楽しもうね。」 「みんなの力を合わせて頑張ろう。」 上谷フェスティバル 「みんなががんばる姿が大好きだよ、いろいろな技を見せてほしいよ。」				修学旅行 B友情、信頼 「みんなのお話聞いているよ。」 6年生に「楽しんでできておもしろいよ。」 「たてわり組の友達に協力して、お話を聞いてみよう。お話を主とするだけでなく、他の学年の友達の話もきくといいよ。」 運動会 B友情、信頼 「みんなの力があるから、みんなに褒められるよ。」 校内音楽会 B友情、信頼 「みんなが歌っている姿が素敵だよ。」	たてわり遊び B親切、思いやり 子ども教室 B親切、思いやり 「友達が書いた書き初めを見ましたよ。自分も書いてみよう。お話を主とするだけでなく、他の学年の友達の話もきくといいよ。」	
特別活動									
計	教科	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月
計	道徳	「はるがきた」② B友情、信頼 「どうぞ よろしく」① B友	「よく聞いて、はなそう」② B友情、信頼	「おおきな かみ」① B親切、思いやり 「公共の精神」① B自然愛護	「すきな こと、なかに」① B友情、信頼	「みんなに しらせよう」② B友情、信頼 「おはなしを たのしもう」	「おもしろいお話、よめよう」② B友情、信頼	「どんな おはなしが できるかな」① B友情、信頼	

(2) 彩の国の道徳と坂戸市食育プログラムを関連した授業実践

女子栄養大学と共同して行う坂戸市食育プログラムにおいて、道徳科の授業教材「おにぎりとおみそしる」(彩の国の道徳「心の絆」)を用いた。指導後段では、栄養教諭の説話を行うことで、児童は食に対する感謝の気持ちについて考えることができた。

(3) 目指す児童像をもとに、3つの視点を示し、それぞれの手立ての構築を行った

視点①道徳的な問題を自分事として考えることができたか【自分発】

☆道徳的な問題を児童が発見する。

- ・アンケートの活用(ICTの利活用) ※単なる生活経験の話合いにならないようにする。
- ・条件、状況の提示の仕方の工夫 ※話合いの土台をつくる。

☆道徳的な問題を児童が主体的に自分とのかかわりで解決する。

- ・登場人物の立場に共感させる工夫 ※道徳的な問題を明らかにする。
- ・役割演技(動作化)を取り入れる ※役割演技を見た児童に意見を発表させる。
- ・立場(行動)を決めて、その理由をもたせる工夫 ※立場(行動)を支える心の働きに道徳的価値が含まれることに留意する。

視点①についていただいた指導

- ・「ねらい」は、授業をしなくても答えられるものでよい。
- 道徳科は「当たり前」を疑うことで、様々な角度から見つめ、「新しい発見」をする時間になりたい。「ここまでは分かっている、ここからは分からない」を大切にする。



研究授業前に全教員で発問を考える取組

視点②多面的・多角的に考えることができたか【友達経由】

☆対話を通して、価値理解・人間理解・他者理解を基にした考えを交流する。

- ・座席の工夫(学びづくりの視点) ※コの字、Vの字、ペア、3～4人グループなどにして、常に友達と話し合える距離を確保する。
- ・ハンドサインの活用(児童同士の指名) ※聴き合う態度を育て、児童主体で話合いが行われることを目指す。教師はファシリテートに徹する。
- ・問い返しの工夫 ※価値理解にかかわる発言には、「なんで?」「どうして?」と返す。その際、全体に問い返す意識をもつ。
- ・板書に残す工夫 ※道徳的価値にかかわる発言を板書する。

視点②についていただいた指導

- ・道徳科は 聞く > 書く
- ペア(短め)グループ(長め)を活用し、一人20回以上の発言を目指す。
- ・板書は、選択して残す(ファシリテートに専念)
- 子供が考えたくなる板書を目指す。



全校朝会で互いの意見を聴き合う活動

視点③ 自己の生き方について深めることができたか【自分着】

☆学習を通して、自分の生き方についての考えを深める。

- ・ 日常に戻す工夫 ※指導後段でのキーとなる発問を用意しておく。
- ・ ワークシートの工夫 ※今までの価値観、話し合いを通して考えたこと、今後生かしていきたいこととその実現可能性を例として示す。

視点③についていただいた指導

- ・ 振り返りの検証をすることで、授業改善につなげる。
- 道德ファイルを教員同士で共有する。
- 振り返りの記述には、価値理解の記述に波線、自己を見つめている記述に棒線をひき、4 類型に分ける
- A 価値○自己○ B 価値○自己×
- C 価値×自己○ D 価値×自己×



振り返りの時間の確実な確保

5 研究の成果と課題

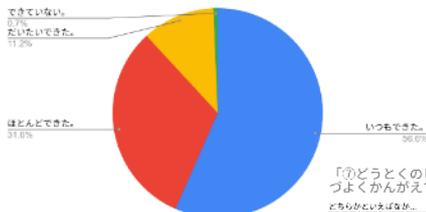
(1) 成果

- ・ 規律ある態度において、「先生や友達の発表を最後まで聞くことができる」について肯定的に回答した児童はほぼ全員である。これまでの「学びづくり研修会」をベースとした聴き合う態度が身に付いてきていると考えられる。
- ・ 道德科アンケートにおいて、約85%の児童が「道德科で様々な考えがあり悩んだことがある」と回答している。ねらいとする道徳的価値を一面的な見方から多面的・多角的に考えたり、人間理解を踏まえながら考えたりしている授業が展開できていると考えられる。
- ・ 約90%の児童が「難しい課題でも、粘り強く考えることができている」と回答していることから、「考え、議論する道徳」の実践を通して、自己効力感を高めながら学習に取り組むことができていると考えられる。

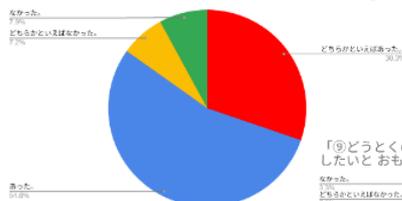
(2) 課題

- ・ 道德アンケートにおいて、約90%の児童が「道德科で学んだことを生活に生かしたい」と回答している。一方で教員からは、特に指導後段での道徳的価値の一般化や日常での経験に生かそうとする振り返りの記述に課題があるとの声がある。今後は指導後段でのキーとなる発問の精度を高める必要があると考えられる。

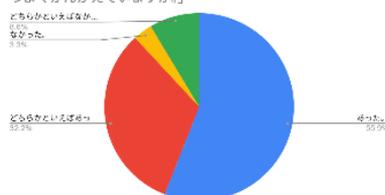
「⑩せんせいの はなしやもたちの はびょうを さいごまできくことができているか。」



「⑧どうとくのじゅぎょうで、いろいろなかんがえかたがあつて、なやんだり、まよったりしたことはありませんか。」



「⑦どうとくのじゅぎょうで、むずかしいかだいでも、ねばりつよくかんがえていますか。」



「⑨どうとくのじゅぎょうで、まなんだことを、これからいしたいとおもったことはありませんか。」

